



2015年度 観光カリスマ講座



会場：フォルテワジマ 4階 イベントホール
〒640-8033 和歌山市本町2-1
ホテルアバローム紀の国 2階 鳳凰の間
〒640-8262 和歌山市湊通丁北2-1-2

定員：社会人 80名、観光学部学生 70名

講習料：無料

※4回以上の講座に出席いただいた方には、修了証書を交付いたします。



<http://www.wakayama-u.ac.jp>

【観光学部教務係】 TEL 073-457-8542 FAX 073-457-8540



■主催

国立大学法人
和歌山大学観光学部
和歌山県

■後援

公益社団法人和歌山県観光連盟
和島興産株式会社



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

2015年度

観光カリスマ講座

本講座は、各地で活躍する「観光カリスマ」や成功モデルと評価されている観光地のキーパーソンを招聘します。観光カリスマのユニークな発想やリーダーシップを発揮しての事業の推進やコンセンサスの形成方法等の実践事例を拝聴するなかで、和歌山県の観光振興と地域再生の方向性を探る上で参考となる「生きた交流の場」とすることをめざします。

第1回 観光立国の更なる推進と観光地域活性化の取り組み

10月8日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 *休憩10分を含む 会場/フォルテワジマ4階 イベントホール

観光庁観光地域振興部長 **吉田雅彦**

昨年(2014年)、「観光立国実現に向けたアクションプログラム2014」の実施に官民一体となって取り組んだ結果、訪日外国人旅行者数は約1341万人にまで急増し、旅行消費額は2兆278億円に達した。交通・旅行・飲食・宿泊はもとより、小売・流通・製造・伝統工芸などの産業が力強くインバウンド需要の取り込みを図っている。

これから更に質の高い観光立国を目指すためには、地域における経済活性化や雇用の創出など、活気ある地域社会の実現が必要不可欠である。本講座では、観光地域活性化の取り組みについて紹介する。

第2回 料理人が繋ぐ生産と消費 ～物語性のある食の提供を通じた人材育成～

10月22日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 *休憩10分を含む 会場/フォルテワジマ4階 イベントホール

辻調理師専門学校・辻製菓専門学校
コミュニケーション本部 企画部 副部長 **尾藤環**

現在、食の課題は、1つの食の研究者や専門職が取り組みれば解消されるほど単純なものではありません。研究者は学問横断的に、専門職は連携することが必要となりますが、現実、期待どおりに進んでいません。しかし、食べ手(消費者)や作り手(料理人)の価値観の変化、インバウンド観光が外食産業に与える影響、ユネスコの無形文化遺産に登録された内容が示す「和食」の本質と潜在力、若者の志向性の変化を読み解くと、1つの可能性が見えてきます。この可能性に横たわる「先入観」や「システム矛盾」を料理人育成の歴史から整理し、辻調理師専門学校で取り組む人材育成の事例を通して、これからの食文化の将来を共有したいと思えます。

第3回 紀州へ呼び込め！外国人観光客 ～ありのままを宝に～

11月12日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 *休憩10分を含む 会場/フォルテワジマ4階 イベントホール

株式会社やまとごころ 代表取締役 **村山慶輔**

観光庁は「平成27年度訪日プロモーション方針」のポイントとして「地方への誘客促進」を掲げている。

外国人観光客がすべて買物と食事のために来日しているわけではない。「外国人目線」をひも解いてみれば、「地元の人と交流したい」「日本にしかない体験をしたい」といった声が多く聞かれる。

リピーターほど地方を旅したい希望を持っており、団体旅行から個人旅行のシフトも今後ますます加速する見通しである。地元の人が「何もない」と思っている地域で、「ありのまま」や「自然」を「宝」に変えた事例を紹介し、紀州全域へ外国人観光客を呼び込むヒントをお届けする。

第4回 マグロ生かしまぐろを超える！ 大間のゲリラ的まちおこし

12月10日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 *休憩10分を含む 会場/フォルテワジマ4階 イベントホール

Yプロジェクト株式会社 代表取締役 **島康子**

「大間に行っても、大間のマグロは食べられないよ」目の前の津軽海峡で獲れたマグロは、すべからく築地に出荷していた大間。本州最北端の漁師町。そんな町に転機が訪れたのは2000年。NHKの連続テレビ小説「私の青空」の舞台となり、大間のマグロ漁師一家のストーリーが全国放送され、ドラマを見た人が「大間でマグロを食べたい」と実際にやってきた。行政に頼らず、自分たちで行動を起こそう！マグロを目玉に大間に人を呼んで元気になろう！という、有志の挑戦がスタートした。

それから15年。マグロを目玉にしたゲリラ的まちおこしは、どこまで来てどこで足踏みしているか、その挑戦のプロセスと課題を語る。

第5回 ふるさとの魅力再発見と発信 ～花火と映画で平和をつくる～

1月28日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 *休憩10分を含む 会場/ホテルアパローム紀の国2階 鳳凰の間

月刊地域情報紙 マイスキップ 代表 **渡辺千雅**

戦後8/2・3に復活した長岡花火は「戦災・震災復興」「慰霊」「恒久平和」への願いが込められた「祈りの花火」です。

長岡市民は空襲を受けた8/1と日米開戦となった12/8の夜、慰霊と平和の花火「白菊」を信濃川沿いで打上げ、平和の尊さを後世に伝えていきます。さらに終戦70年を迎えた2015.8/15。日米開戦となった真珠湾奇襲攻撃の総指揮官・山本五十六の出身地である長岡は、過去の恩讐を乗り越えて、真珠湾で「白菊」を打上げるといふ歴史的快挙を成し遂げました。

「ひょっとしたら長岡花火で平和がつかれるかもしれない」—そんな発想から取組んだ古里映画製作や「白菊」の打上げ。中越地震から11年間の市民協働による活動事例をご紹介します。